

# 平成 18 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 大坪庸介

最終学歴	Northern Illinois University			
取得学位	Ph.D. in Psycyhology （August, 2000）			
所属学会	American Psychological Association, Socieity for Personaltiy and Social Psychology, Human Behavior and Evolution Socieity, 日本心理学会，日本社会心理学会，日本グループダイナミックス学会、法社会学会			
現在の専門分野	社会心理学、進化心理学			
研究課題	集団意思決定，コストリー・シグナリング，心の理論の発達，スパイスの利用と抗菌仮説			
【研究上の特記事項】				
2006年～2008年：日本学術振興会 科学研究費補助金 若手研究(B) 「意図性推論の対人相互作用的基盤に関する研究」研究代表者				
【学内活動】（学内職歴を含む）				
社会学部入試委員・公開講座×2（本学主催高の原カルチャーサロンなら講座@奈良先端科学技術大学院大学）				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
Understanding world jury systems through social psychological research	共著	2006	Psychologi y Press	世界の陪審制度に関する心理学的研究を含むヴォリュームに、日本の裁判員制度についての章（12章）を寄稿した。
よくわかる社会心理学	共著	2007	ミネルヴァ書房	社会心理学の教科書。大坪はマインド・リーディングと透明性の錯覚（III-2）， 集団の生産性（IV-1）， リーダーシップ（IV-2）， 集団意思決定（IV-
（学術論文）				
Development of Japanese children's false belief understanding	単著	2007	Psychological Reports	日本の幼児において「心の理論」の発達が遅れるという先行研究の内容をメタ分析と実験により確認した（Vol. 100, No.1, pp. 87-97）。
A pilot study of nonconscious mimicry among Japanese university students: Is a socially undesirable behavior mimicked?	単著	2007	奈良大学総合研究所所報	自動的模倣についての予備的な実験結果の報告を行った。

(学会発表)				
看護師はなぜ医師の間違いを指摘できないか? : 医師側の要因	共著	2006	日本グループダイナミックス学会	看護師がどのような医師とのコミュニケーションに困難を感じるかについてのサーヴェイ結果を発表した。
Greater sensitivity to social risk than to natural risk	共著	2006	Human Behavior and Evolution Society	Iowa Gambling Taskを用いた実験研究についての結果を発表した。
Is there evidence for the antimicrobial hypothesis in Japanese local cuisines?	単著	2006	Human Behavior and Evolution Society	日本の家庭料理を用いて抗菌仮説の検討をした結果を発表した。
パートナーへの好意度がメタ知覚の正確さに及ぼす影響	共著	2006	日本社会心理学会	二人一組で簡単な相互作用を行った者が、相手が自分にどのような印象をもっているかをどの程度正確に把握しているかについての実験研究の結果を発表した。
社会的リスクと自然的リスクへの異なる反応 : Iowa Gambling Taskを用いた実験的検討	共著	2006	日本社会心理学会	Iowa Gambling Taskを用いた実験研究について、課題のフレームを自然的リスクと社会的リスクを操作した場合の結果を発表した。
薬味かお酢か? : 抗菌仮説の再検討	単著	2006	人間行動進化学研究会	日本の伝統料理とされるレシピが掲載された本の内容を分析し、日本料理の抗菌食材として酢と薬味のどちらが妥当かを検討した。
Empathy makes one's meta-perception more accurate, but discourages one from using it.	単著	2007	Society for Personality and Social Psychology	二人一組で簡単な相互作用を行った後に、相手が自分についてどのような印象をもったかを予測する際に共感性が正確さと相関することを示す実験結果を発表した。
Effects of prior investment and personal responsibility in a simple network game	共著	2007	Asia-Pacific Regional Meeting of the Economic Science Association	Network Gameでの人々の振る舞いがナッシュ均衡により予測されることを示した実験結果を発表した。
(その他)				
食文化と遺伝子の共進化 : 乳糖不耐性とG6PD欠乏症	単著	2006	食文化誌ヴェスタ	食文化と遺伝子の共進化の例として乳糖不耐性、G6PD欠乏症の事例を紹介した (No.64, pp. 44-48)。